

まことと会便り

2019/6

みなさま、いかがお過ごしでしょうか？

平成二十八年の京都西本願寺伝灯奉告法要に際して、第二十五代ご門主より「念仏者の生き方」と題したご親教（ご法話）が示されました。その中で、私たちは我執・我欲から抜け出せない存在ではあるものの阿弥陀如来のご本願を聞かせていただくことで、自分本位にしか生きられない自分の姿に気づかされ、できる限り身を慎み、言葉を慎んで、少しでも煩惱を克服する生き方へと作り変えられていくのだとお話になりました。欲を少なくして足ることを知る「小欲知足」や穏やかな表情と優しい言葉で他者と接する「和顔愛語」などがこれに当たります。

しかしそれらは決して自らの力で行う修行ではなく、ご法話をお聴聞する中からお導きいただく心なのです。昨年にはその肝要を「私たちのちかい」として具体的に四箇条の言葉にまとめられました。

私たちがその言葉を受け止めていく中で、一人ひとりがそれぞれに念仏者としてどのように生きていけばよいのか、自らに問いかけてまいります。

行事予定



六月 五日

ヨガの会

六月 二十一日

ヨガの会

七月 十日

まこと会 夏法座

八月 十三日

光圓寺 盆法座

十月 二十三日

まこと会 念仏奉仕

十月 三十日

光圓寺 報恩講

三十一日

秋季永代経法要

『私たちのちかい』の味わい

釈 徹宗 著

五月二十八日・二十九日に勤まりました春季永代経法要において、ご参拝いただきました皆さまにお配りいたしました。

修行や戒律を課さない浄土真宗の教えをいただきながら、私たちはこの現代社会においてどのように生きていけば良いのでしょうか？ 仏さまのみ心に叶う生き方とはどういったことなのでしょう？ こういった問いに対して具体的に私たちが努力することをまとめた「私たちのちかい」の四箇条をわかりやすく解説してあります。ぜひご一読ください。



お要りの方は
お寺までお申し出ください。

【春季永代経法要 坊守覚え書き】

*私の方から参らせてもらおうというのは間違い・・・？

阿弥陀如来さまは私たちの方へ救いに来てくださいます。私たちは苦しい修行をしないまま、そのままでお浄土へ参らせていただけます。

では私たちが日々の暮らしの中で、自分の欲や怒りや妬みの心を一生懸命に律する努力をして、私の方からお浄土へ参らせていただくという心は間違いなのでしょうか・・・？

自分の欲と向き合い、律したいと思うその気持ちは間違いではありません。しかし私たちはその気持ちをずっと長い時間、常に常に持ち続けることができません。蚊に刺されればつい叩いて命を奪ってしまう、そんな存在なのです。

忘れても 忘れぬ弥陀がある故に

忘れながらも この身このまま

源左

たとえ私が一所懸命精進しようという気持ちを持ったとしても、日暮らしの中ではその気持ちをつい忘れてしまう。そんな私を救うために五劫という膨大な時間をかけて救う手立てを整えてくださっている阿弥陀さまがいらっしやる。だからこのままお救いいただけるのです。その阿弥陀さまのご苦勞を聞いていくのがこの永代経法要のご縁です。

*三縁

七高僧のお一人でもある中国の善導大師は三つのご縁を説かれています。

・親縁（しんえん）

・近縁（こんえん）

・増上縁（ぞうじょうえん）

浄土真宗の「縁」とはお念仏をいただくことです。

お念仏をいただくということはお称名するということです。

阿弥陀如来さまは「南無阿弥陀仏」

のお念仏となって私たちの所へ届いてくださっています。それと同時に

私たちがお称名させていただいている声を聞いてくださっています。

そして、私たちを常に見ていて、私たちという人間を知ってくださいています。そんな私たちの全てを知った上で、尚かつ全く足りない私たちが仏になる道を整えてくださっているのです。私たちは今ここで既に仏となる道をいただいている、この上ないご縁をいただいているのです。そのご恩を思い、お念仏していきましょう。

